



## テーマ 外国にルーツを持つ子どもたち Part 3

外国出身のおとなりさんやお友だちはいませんか？

仙台市の外国人人口は、1万人以上。\*

多様な文化を持つ人たちが共に暮らす、「多文化共生」のまちづくり、  
あなたのご近所でも始めてみませんか？



第6号

企画・発行  
仙台観光国際協会  
センティア SenTIA

ピック  
アップ!

### 子どもたちの転校生受入プロジェクト

青葉区宮町の北六番丁小学校5年生のクラスで話を聞きました。  
中国からの転校生を、突然受け入れことになった子どもたち。  
日本語がまだあまりわからないと聞いて、みんなで準備を始める  
ことに・・・。 → 続きは3ページ

ジュンコの  
たぶんか  
探検記

中野栄小学校の  
「スーパーレディ」  
を取材！  
→ 2ページ



取材  
メモ

### みんなで受け入れ、みんなでサポート

「外国出身の子ども」「日本語が話せない子ども」と聞くと、専門家や通訳者の支援がなければ、コミュニケーションすら難しいと思うかもしれません。学校現場からも、外国にルーツを持つ児童生徒の受け入れに不安を感じる声も聞こえてきます。今回は、外国にルーツを持つ転校生を受け入れるため、地域の人材やクラスの子どもたちが協力し、自分たちでサポートする体制を作った事例を紹介します。





**佐藤ジュンコ**：イラストレーター。福島生まれ、福島育ち、仙台暮らし。著書に、『佐藤ジュンコのひとり飯な日々』（ミシマ社）、『月刊佐藤純子』（ちくま文庫）、『仕事場のちょっと奥までよろしいですか？』（ポプラ社）。現在、月刊誌「PHPスペシャル（PHP研究所）」、ウェブマガジン「みんなのミシマガジン」（ミシマ社）、河北新報夕刊「街で会いましょう」等で連載中。



## 地域の力を活かした子ども支援 仙台市立中野栄小学校

「日本語が話せない子どもの支援には、外国語がわかる人が必要」と思われがちです。しかし、外国ルーツの児童生徒が増加する中、こうした人材は不足しています。地域の力を活かして子どもたちの支援を行う学校で話を聞きました。

写真：取材でお話を伺った郷家さん（右）、小形さん（中）、郡山さん（左）

### 子どもたち

仙台市の東端、多賀城市に隣接する地区にある仙台市立中野栄小学校。水族館やビール工場などが地域にある、港の近くの学校です。2016年の夏休み明け、この学校にフィリピンで育つた子どもたちが転校してきました。

「日本語がほとんど出来ない2年生と1年生の姉弟が入ってくると、鎌田校長先生からこの話を聞いたときは、さてどうしようかと思いました」

中野栄小学校で学校地域支援本部のスーパーバイザーを務める郷家勤さんが、当時を振り返ります。「学校地域支援本部」は、地域と学校をつなぎ、学校の様々な活動に地域の人材を活かすことを目的とした仙台市のコーディネート事業。郷家さんはPTA会長経験もあり地域をよく知る学校の相談役です。

「まずは学校に早く慣れてもううためサポート体制を整えようと考えたのですが、その時に頭にパツと浮かんだのが、うちの学校のスーパー・レディたち。彼女たちならできるだろうと」

### 子育てのベテラン 「スーパー・レディ」

郷家さんの言う「スーパー・レディ」とは、1年生の給食時間にサポートをする木村さん、佐藤さん、郡山さん、小形さん、佐々木さんの5人の地域ボランティア。皆さん、自分の子どもはすでに成人し、孫もいる子育てのベテラン。地域や学校で様々な活

動もしています。ただし語学は出来ないし、外国にルーツを持つ子どもたちの支援経験もありません。

それでも「言葉が通じなくて

も子どもは子ども。彼女たちなら大丈夫」と考えた郷家さん。

「とにかく一緒にいてあげればいいから」と学校でのサポート役を頼み、5人も「やってみま

しょう」と気軽に引き受けました。

こうして始まった姉弟のサポート。月曜から金曜の毎日2時間、5人が日替わりでクラスに入り、子どもの隣に座つて一緒に授業を受けました。「初めて会つた時はやっぱり緊張しました。お互い言葉が通じなかつた

し。子どもたちも不安だつたと思いません」と郡山さん。それで

「始めてみたら言葉の問題はそんなに大きくなかつた。しぐさや表情でお互いに意思疎通が出来たし、絵を描き合つてコミュニケーションが取れました」と佐藤さん。

冬になる頃にはすっかりクラスにも馴染み、授業も他の子どもたちと一緒に受けられるようになりました。「私たち自身もサポートすることを楽しんで、とにかく焦らず、気張らず、気負わ

ずで、寄り添うことを大事にや

ります」と小形さん。子どもたちは成長を見守ってきた船山教頭先生は、「入学初期の一番不安な時に、いつも寄り添い、頑張りました」と小形さん。

「Hくんの転人は突然で、担任として特別なことは出来ませんでした。子どもたちは転校生のことを知らせただけで、準備を促したわけではありません。みんな自発的にやつてくれました」と担任の大友先生。

こうしてクラスにHくんを迎えた子

どもたち。日本語が上手く伝わらない中、どうすればよいか「ミュニケーション」を工夫します。

「給食当番が一緒なので、ジェスチャーや簡単な日本語を使って教え

できるようになつてきましたが、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちは手をあげられるようになつたりする子どもたち。

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試行錯誤で日本語や勉強を教えました。数か月経つと、授業も理解できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心した子ども

たちの適応を早める

授業中、状況がわからず不安になつたり、勉強に集中できな

くなつたりする子どもたち。

スーパー・レディたちは、幼稚向

けの絵本や教材を使うなど、試

行錯誤で日本語や勉強を教えま

した。数か月経つと、授業も理解

できるようになつてきました

が、自信が無くて手を挙げるこ

とができません。そんな時は「(その答えで)あつてるよ」と、

そつと後押し。安心

# センティアは、外国にルーツを持つ子どもたちをサポートします



仙台には、  
外国にルーツを持つ子どもたちは  
どのくらいいるの？



統計資料：仙台市

## SenTIA「センティア」とは？

(公財) 仙台観光国際協会の略称です。  
センティア国際化事業部では、  
言葉や習慣の異なる外国人住民や  
外国にルーツを持つ人たちが安心して  
暮らせる多文化共生のまちづくりのため、  
さまざまな事業を行っています。



※2015年4月、仙台国際交流協会(SIRA)と  
仙台観光コンベンション協会(STCB)が統合し、  
仙台観光国際協会(SentIA: Sendai Tourism,  
Convention and International Association)が  
設立されました。

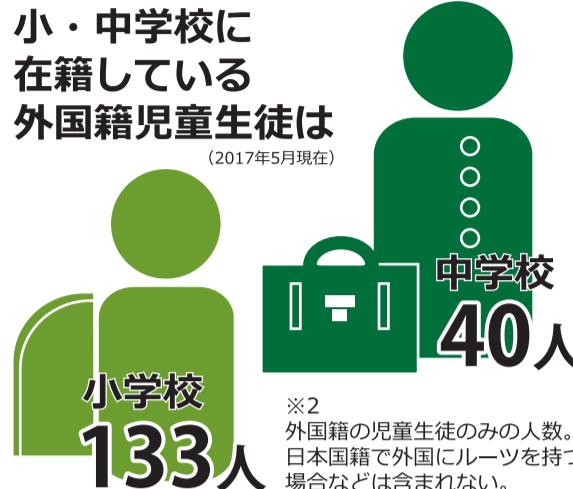
多文化共生に関する問い合わせは > センティア国際化事業部へ

電話 : 022-268-6260 FAX : 022-268-6252

Email : kokusaika@sentia-sendai.jp

住所 : 仙台市青葉区大町2丁目2-10 仙台青葉ウイングビルA棟11階

※2  
仙台市立の  
小・中学校に  
在籍している  
外国籍児童生徒は  
(2017年5月現在)



※3  
外国籍児童生徒が在籍する  
仙台市立の小・中学校は  
(2017年5月現在)



※3  
小学校、中学校  
それぞれ約1/4の  
学校に外国籍児童  
生徒が在籍。  
国見小、八幡小、  
片平丁小、茂庭小、  
仙台一中、  
幸町中などに多く  
在籍している。

子どもたちのルーツとして多い国・地域は



中国、フィリピン、  
ベトナムなど、  
アジアの国・地域に  
ルーツを持つ  
子どもたちが  
多くなっています。

外国语にルーツを持つ子どもたちの人数は把握できません。  
統計対象は「外国籍」の子どもたちに限られ、  
日本国籍で外国语にルーツを持つ場合などは含まれません。

## 「外国につながる子どもサポートせんたい」 相談デスクをご利用ください

電話 : 022-268-6260

(仙台観光国際協会内 平日午前9時 - 午後5時半)  
※土日・祝日は仙台国際センター交流コーナーへ



相談デスクでは、  
外国语につながる子どもとその保護者、  
子どもたちを受け入れる学校、  
現場の先生たちをサポートします。

### 経験豊富なコーディネーターを 学校や関係機関に派遣します

外国语につながる子どものサポート経験が豊富な  
スタッフを派遣。入学手続きの支援や、子どもの  
日本語力確認、日本語学習の指導方法や学校  
生活適応のためのアドバイス、外国人保護者との  
面談への立ち合いなどをいたします。

日本語学習教材や多言語資料、外部のサポート  
プログラムも紹介します。派遣費用は無料です。

【2017年度派遣実績】  
計32件 ※2018年3月末現在  
(小学校19件、中学校7件、その他6件)

「外国语につながる子ども」  
「外国语にルーツを持つ子ども」とは？

- ・親の事情で外国から来日した子ども
- ・日本で生まれ育ったが、両親またはどちらかの親が外国籍の子ども
- ・日本国籍を含む重国籍をもつ子ども
- ・保護者の国際結婚等により、家庭内言語が日本語以外の子ども

こうした子どもたちは、  
特別な問題を抱えることがあります

- ・異なる文化や習慣の中で育ってきたため、学校生活に馴染むのに時間がかかる。
- ・会話は問題ないが、学習言語が身についておらず、教科学習についていけない。
- ・保護者の日本語力が低く、家庭での学習をサポートできない。

通訳・各種相談は > 仙台国際センター交流コーナーへ

電話 : 022-224-1919 FAX: 022-265-2472

住所 : 仙台市青葉区青葉山 仙台国際センター内